

# 工化時報

3

1960. 7

江的制持

3

江的制持

## 巻 頭 言

五 来 達

マンモス都市東京、そこにそびえるマンモス大学に学ぶのは、錯綜する現代日本を切実に生きる最善の道かも知れない。

先日、水道橋からO先生と同行したときのこと、一青年が途中でO先生に挨拶した。O先生はその肩をたたくきながら、なつかしそうにいわれた。「去年卒業されたY君でしたね。会社のほう大へん好調にいつているようですね。」Y君と呼ばれる青年は一年の間に、しようしやな背広の着こなしと同様、洗練された社会人としての教養もすっかり身につけたらしく、「先生は前よりもかえつて若くなられましたね。」などとお世辞をふりまいたあと、「これから先生は本社の方へ御出勤ですか。」ときいた。これにはさすがのO先生もかすかに苦笑をうかべられ、「いや、大学本部へ行きます。君の母校は株式会社じやありませんよ。」とさとするような句調でいわれた。三崎町で私は「これから支店の方へまいりますので」とじようだんをいゝながらO先生と別れた。

戦後間もなく、専門部が郡山へ移転し、やがて第二工学部に昇格するまで約三年間、私は郡山の学校の寮に住んだが、ときどき上京すると、街が灰色一色なのに何かやるせない思いがした。私が赴任した当時の郡山の工学部はアカシヤの木立に包まれ、黒つぐみ、かつこう、うぐいす、よしきり、三光鳥、その他さまざま小鳥のコーラスが教室まで聞えた。6月アカシヤの花のさかりにはその高い香が広い校内にあふれた。

駿河台では、教室の窓の外はすぐ町である。夏、教室の窓をあけておくと、電車のひびき、自動車の音、それにまじつ



てなまめかしい流行歌が風につて流れこんでくる。あるとき私は若い先生にこう述懐した。「学校も灰色、それをとりまく街も灰色、これじや人間の心も灰色になりませんかね。」「それに講義される *Alle Theorie ist grau* というところですかね。」といつて若い先生は笑つた。「しかし、*Lebensbaum ist immer grün*、日本語の青春とはよくいつたものですな。私にとつて東京は何よりもはつらつと生きています。美しい人、美しい服装、美しい情緒、奔流のような雑踏、ありあまる贅沢な商品、スピード、それにうまい酒、楽しい音楽とダンス、しかも全身を打ちこむことのできる科学研究、灰色はたそがれの色ですな。昼と夜の過渡期に存在するかりそめのものにすぎませんよ。」世をあげてマスコミ、マス・プロの時代である。この青年学徒は複雑怪奇な東京によく適応した1つの型を示すものだろう。しかし、ラブリユイエールの書のように「人さまざま」である。分析化学のある老大家は周期律表を指しながらいつた。「これを見ていると自然の妙に胸をうたれ、感涙を催すのです。」こゝでは科学が宗教に接している。

# 工化会議事録大要

## 〔1〕 庶務委員会報告

### (1) 第二回工化会総会

昭和34年11月2日夜レストラン、ランチオン に於いて、  
出席者59名。

#### 議 題

#### 1. 議長選出

議長名取康(旧学2回)副議長 安達昭郎(1部4年)  
に決定。

#### 2. 経過報告

① 庶務事業報告(玉置弥栄)

② 会計報告(齊藤昌孝)

33年度決算報告全員にて承認。

③ 会計監査報告(末松秀俊)

#### 3. 会則改正案審議

木村茂生氏より文体の変更、総会の時期及会計年度の  
明記等主改正点説明。

新会則は別に示す通り。

#### 4. 予算案審議

齊藤昌孝氏より原案提出説明あり、全員で可決。

#### 5. 評議員選出

未定個所及び不承諾者の分は何時でも役員会で変更し  
得ることの下に別記の通り承任された。

#### 6. 役員選出

新役員別記の通り。

#### 7. 会長挨拶

### (2) 第一回学内役員会

昭和34年11月24日

#### 議 題



- 工化時報を3月頃発行する。部数、送附先は小委員会で定める。
- 名簿の訂正事項は時報に載せる。売捌き方法等は小委員会で定める。
- 評議員の欠員はそのクラスに直接依頼する。

### (3) 第一回(全)役員会

昭和34年11月28日

#### 議 題

1. 朝日生命より「工化会で推薦して戴きたい」との申し出を審議、工化会としてはそういうものに関係しないことに決定。
2. 第1回学内役員会の話題そのまま承認する。
3. 会則二条修正。(総会で庶務に一任された部分)
4. 役員及びその他の人は年賀状で関係者に名簿完成の通知をすること。

以 上

#### 35年度役員及び評議員名簿

会 長 (一名)	中 原 万次郎		
副 会 長 (二名)	松 本 太 郎	亀ヶ森	進
監 事 (四名)	東 田 政 治	鈴 木 一 郎	
	木 村 茂 生	亀 田 昭 治	
庶 務 (四名)	玉 置 弥 栄	南 山	齊 夫
	齊 藤 良 樹	福 田 力 夫	
会 計 (三名)	伊 藤 舜 介		
	齊 藤 昌 孝	齊 藤 憲 治	
名簿編纂 (四名)	荒 井 康 夫	上 野 敦 行	
	越 智 健 二		
会報編纂 (四名)	穴 沢 一 郎	名 取 康	
	宮 道 雅 行	矢 鳥 敏	

高等工業学校卒業生

第一回	川 烟	俊 光	光 義	佐 藤	寅 雄
" 二 "	永 井	政 義	義 久	黒 沢	喜 久
" 三 "	田 所	利 男	男 守	杉 野	野 守
" 四 "	町 田	光 輔	輔 里	飯 田	田 里
" 五 "	平 岡	源 造	造 雄	平 間	間 文
" 六 "	佐々木	恭 司	司 章	井 上	上 博
" 七 "	林	正 盛	盛 信	鈴 木	木 正
" 八 "	南 村	弘 和	和 明	西 見	見 正
" 九 "	相 原	重 夫	夫 一	青 池	池 喜
" 十 "	浅 沼	倉 吉	吉 士	金 子	子 茂
" 十一 "	島 村	久 雄	雄 十	倉 形	形 武

専門部卒業生

第一回	黒 川	英 一	一 敬	中 住	川 重	雄 雄
" 二 "	大 野	高 高	高 進	住 宮	吉 吉	雄 已
" 三 "	亀ヶ森	千 秋	秋 夫	宮 安	内 藤	克 幹
" 四 "	野 口	千 忠	忠 夫	安 新	藤 屋	野 博
" 五 "	池 田	道 夫	夫 治	新 宮	屋 島	野 明
" 六 "	二本柳	清 治	治 助	宮 牧	島 野	昭 治
" 七 "	二 川	竜 之	助 操	牧 上	野 田	一 善
" 八 "	脇	井 順	五 郎	上 大	田 野	道 保
" 九 "	石 井	岡 昌	昌 一	大 渡	野 辺	功 保
" 十 "	平 岡	藤 昌	昌 一	渡 八	辺 木	功 保
" 十一 "	内 藤	藤 昌	昌 一	八 木	木 功	功 保

旧制学部卒業生

第一回	窪 田	育 蔽	蔽 康	吉 田	清 風
" 二 "	名 取	生 仁	仁 喬	西 保	正 博
" 三 "	笹 生	木 喬	喬 哉	保 坂	良 哉
" 四 "	大 木	木 喬	喬 哉	浅 野	良 哉



第五回	太	田	善	造	太	田	武	一
"六"	中	谷		宏	原	田	真	也
"七"	関	谷	道	雄	橋	本	甲	四郎
"八"	福	沢	浩	巳	富	田	清	泰
"九"	植	松	喜	稔				
"十"	板	垣	四	郎				
"十一"	植	松		治	稻	島	昭	二
"十二"	入	倉	芳	郎	新	海	昭	男

新制一部卒業生

第一回	田	村		博	赤	池	俊	光
"二"	細	谷		昇	三	田	郁	夫
"三"	横	田	一	郎	柏	原		剛
"四"	亀	割	健	彦	松	田	誠	一
"五"	杉	本	英	次				
"六"	竹	内		猛	渡	辺	久	晃
"七"	酒	井	完	五	中	嶋	和	紀
"八"	国	友	義	和	茂	出	久	義

新制二部卒業生

第一回	山	田	栄	一	鈴	木	昌	利
"二"	山	下	善	道	島	村	馬	次郎
"三"	大	内		蕃				
"四"	中	村	正	行	村	田		武
"五"	糸	賀	司	郎	綱	島	康	晴
"六"	江	部	明	夫	篠	沢		明
"七"	高	波	勇	二	中	山	喜	勝

短期学部卒業生

第一回	石	原		忠	遠	藤		清
"二"	柳	沢		明	苗	村	富	七
"三"	木	村	和	雄	広	橋	賢	吉



第四回	石野信生	青木司
"五"	高橋保博	田口稔孫
"六"	川村秀利	田尻勝紀

短期二部卒業生

第一回	林貞吉	奥谷忠雄
"二"	西田茂	
"三"	高沢恂	北見義明
"四"	小林平	深沢周平
"五"	矢野弘子	
"六"	板野昭	

大学院生

第一回	板谷啓造	武内隆幸
"二"	石原健二	松本誠臣
"三"	大塚洋三	石田光男
"四"	島田一	中村百樹
"五"	長島宏至	萩原保亮
"六"	竹内孟	広橋亮

学生の部

一部九回 末松秀俊。相場宏。安達昭郎。田口源太郎。  
 4年木村茂生。齊藤昌孝。宮道雅行。越智健二。3年齊藤  
 一郎。齊藤良樹。芝田研爾。遊佐義郎。土屋宏一。二部4  
 年齊藤憲二。矢島巖。福田力夫。3年臼井了一。千種旬子。  
 梅光忠義。八回遠藤修造。小林輝久。鶴見年正。高室守夫。  
 亀井三郎。短期一部2年白高照道。成石典子。中島弘之。  
 高橋要行。鶴見年正。大学院川本信夫。黒木正胤。松田武  
 男。一部2年 井野二隆。大橋隆。高橋宏。西山孝彦。吉崎猛。  
 (以上に記されていない所は連絡が取れず未定です。)

昭和34年11月3日

工化会庶務委員会

## 工化会々則

### 第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は工化会と称する。
- 第 2 条 本会は日本大学工業化学関係教職員、卒業生、在学生の啓発、親睦をはかり、あわせて同学の発展に貢献することを目的とする。
- 第 3 条 本会は前条の目的を達成するためつぎの事業を行う。
1. 講演会および懇親会などの開催。
  2. 会報および名簿の刊行、配布。
  3. その他本会の目的を達成するために必要な事業。
- 第 4 条 本会の事務所は、東京都千代田区神田駿河台1丁目5番地、日本大学理工学部工業化学科教室におく。

### 第 2 章 会 員

- 第 5 条 会員は正会員、学生会員、および名誉会員の3種とし、正会員は、日本大学高等工学校、専門部工科、旧制工学部、新制工学部、理工学部、短期大学工科、大学院工学研究科の工業化学関係（以下本学と称する）教職員、卒業生とし、学生会員は在学生とし、名誉会員は評議員会の推薦によるものとする。
- 第 6 条 本学新入生は入学と同時に学生会員となり、学生会員は卒業と同時に正会員となる。本学教職員は本学勤務と同時に正会員となる資格を有する。

### 第 3 章 総 会

- 第 7 条 総会は通常総会と臨時総会の2種にする。
- 第 8 条 通常総会は毎年1回、会計年度終了後2カ月以内に会長がこれを開く。



第 9 条 臨時総会はつぎの場合に会長がこれを開く。

1. 役員会又は評議員会で必要と認めるとき。

第 10 条 総会の成立は会員出席者によつて成立し、議事決定は多数決による。

第 11 条 議長は出席者の選挙により選び、副議長、書記は議長がこれを任ずる。

第 12 条 つぎの事項は総会に提出してその承認を受けるものとする。

1. 事業報告および計画
2. 決算および予算。
3. 役員および評議員の選出。
4. 会則の変更。
5. その他、役員会または評議員会において必要と認められた事項。

#### 第 4 章 役員および役員会

第 13 条 本会につぎの役員をおく。

1. 会 長 1 名
2. 副 会 長 2 名
3. 監 事 4 名 ( 学生 2 名 )
4. 庶務委員 4 名
5. 会計委員 3 名
6. 会報編集委員 4 名
7. 名簿 " 4 名

第 14 条 会長は本会を代表して会務を総括し、日本大学理工学部工業化学科主任教授がこれにあたる。

第 15 条 副会長は会長を補佐するもので、総会において会員中より選出する。

第 16 条 監事は会務および会計の監査にあり、総会において会員中より選出する。

第 17 条 庶務委員、会計委員、会報編集委員および名簿編

集委員は会務を分担し、評議員会の推薦を得て会長がこれを依頼する。

第18条 役員任期は1年とする。但し、留任をさまたげない。

第19条 役員会は会長が必要と認めた場合これを招集し、役員過半数の出席者によつて成立し、議事決定は多数決による。

#### 第5章 評議員および評議員会

第20条 評議員は会長、副会長その他の役員を補佐し、会務の遂行をはかり、本学校教職員全員、各年度の卒業生、在学中よりつぎのように選出する。各年度卒業生より2名、在生は各学年より4名以内とし、任期は1年とする。但し、留任をさまたげない。

第21条 評議員会は総会に次ぐ決議機関であり、評議員多数の請求があつた場合、会長がこれを招集し、出席者によつて成立し、議事決定は出席者の3分の2以上を必要とする。

#### 第6章 会費および会計

第22条 本会の経費は会費および寄付金をこれに当てる。

第23条 会員は、正会員年額200円、学生会員年額100円を納めなければならない。

第24条 本会の会計および事業年度は、毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終る。会計報告は工化時報で公表する。

#### 第7章 付 則

第25条 本会々則の改廃は総会において決定する。

第26条 本会々則は昭和33年11月1日より実施する。

第27条 本会々則は昭和34年11月2日に一部改正する。



## 〔2〕 会計委員会報告

34年度総会において、昭和33年度会計報告並びに昭和34年度予算案を提出説明し、これを満場一致で可決し、承認されましたので本号に記述し、会員諸兄に報告いたします。

33年度の会計は、工化会の設立当初故予算案もなく、収入の度合を関しながら各委員会の必要に応じ支出した。そのため変則的なことが多く、不備なる点、不満の点のあることと思ひますが、了承お願い致します。本年度予算案は正会員の方々の会費徴収組織の不完全のため、年収入額を決定するのが大変困難であり、したがつて、計画もまったく算定的なものであります。しかし、皆様の協力のもとにこの計画の通り各部門の目的事業が運営され、真に遂行されますよう賛同協力をお願い致します。

工化会をより一層大きく飛躍するべく、この趣旨を理解下さいまして会費納入の旨お願いします。特に正会員の皆様には我々納入方法をより検討し、最善の努力をする所存であります故、先輩諸兄の絶大なる協力を重ねてお願い申し上げます。

尚、会計報告は各監事に証拠書類と照合の結果相違ないことを報告し、これを承認されました。又、監事並びに会計は各部門委員会の収入、支出の照合の結果、相違ないことを承認致しました。

会計委員 伊藤舜介（旧学五回）  
齊藤昌孝（学部一部四年）

# 昭和33年度会計報告

自昭和33年10月1日  
至昭和34年9月30日

## 収入の部

項	目	金額	備考
經常費	會員收入 正會員會費	18,200	91名(2.0%)
	學生會員會費	84,200	842名(58.7%)
	名簿予約金	86,400	
臨時費	借 用 金	13,950	
繰越金		0	
合 計		202,750	

## 支出の部

項	目	金額	備考
經常費	会誌への援助金	4,000	33年度準備号
	通 信 費	7,500	33年度總會
	庶 務	5,000	
	事 務 費	1,905	
	交通々信費	1,678	
	印 刷 費	550	
	残 金	867	
	会 誌	34,000	
	会 誌 費	32,000	
	交通々信費	170	
	雜 費	340	
	残 金	1,490	
	名 簿	71,450	
	印 刷 費	4,650	
人 件 費	45,700		



項	目	金額	備考
	消耗品費	1,600	
	通信費	13,706	
	雑費	2,910	
	残金	2,884	
	会計	3,000	
	事務費	210	
	交通々信費	110	
	残金	2,670	
繰越金		77,800	
合計		202,750	

## 昭和34年度予算

自昭和34年10月1日  
至昭和35年9月30日

### 収入の部

項	目	金額	備考
經常費	会員収入 正会員会費	69,600	348名(10%)
	学生会員会費	95,800	958名(70%)
	名簿売上金	407,400	
臨時費	広告料収入	286,000	名簿広告掲載料
繰越金		77,800	33年度より
合計		956,600	

支出の部

項	目	金額	備考
経常務	庶務	49,100	
	34年度総会費	6,000	33年度庶務残金 867円を含まず。
	35年度総会費	27,000	
	会議費	11,100	
	運営費	5,000	
	会誌	137,700	
	時報刊行費	126,600	33年度会誌残金 1,490円を含まず。
	編集費	6,100	
	雑費	5,000	
	名簿	695,000	
	印刷製本費	500,000	33年度名簿残金 2,884円を含まず。
	郵送通信費	80,000	
	広告手数料	70,000	
	人件費	38,000	
	雑費	7,000	
	会計	18,800	
	交通費	12,600	33年度会計残金 2,670円を含まず。
	通信費	1,200	
	事務費	5,000	
	学生会員活動援助費	10,000	
臨時費		13,950	
予備費		32,050	
合計		956,600	



## 〔 会 員 消 息 〕

### 級会だより

#### ○ 新制学部一部8回クラス会だより

昭和34年3月に母校を後にして、社会入一年生となり巣立つた同窓生は、日夜先輩諸氏に遅れまいと、各自のペースにおいて励んでおります。

卒業後クラス会という名で集ったことがなく、少数の友達と連絡しあつて集つたことは間々あるのですが、大勢の同窓生が集まる機会を早く作りたいと思つております。少数の友達の話から伺つたことにより、横の連絡をつけている状態なのです。

昨年を振り返つてみて、同窓生が顔を合せた時は、在学中担任教授として非常に良く御指導していただいた松本太郎教授の“国際会議”出席の壮行会に、小泉、須藤、関口、出蔵、中村（明）、日比野、堀、真中、宮、横山、和田（治）、国友の諸氏で壮行会后数人で席を改め、その後の近況、仕事の内容等を話し合つて一夜を楽しく過しました。

その後工学祭に松尾氏が愛知県から上京され（小野田セメント・田原工場勤務）、旧こうをあらたにしました。又工工会第2回総会に、宇田川、小泉、斉藤（実）、松尾、吉本、国友の諸氏が出席し、先輩諸氏の工工会に対する御意見を伺つて、母校を背後にした活動範囲の広さを身をもつて体験しました。

亜細亜石油KK横浜製油所勤務の堀居氏が、体をこわして休んでいるという噂を耳にしましたが、もし本当であれば、一日も早く元通りの体調にもどり、元気に勤務されることを願つてやみません。

同窓生の皆さん近況を御知らせ下さい。近いうちに一度集  
まろうではありませんか？

連絡先

東京都足立区新田三丁目 4 1 8

茂出木 久 義

東京都足立区千住東町 9 0

国 友 義 和

追伸

堀居氏の入院先が判りました。ヒマをみて励まして下さい。

東京都新宿区柏木東京医科大学附属病院 新館 5 3 6 号

○ 二化会だより（旧制学部第2回）

昭和34年4月「二化会報」は第10号をもって終り、  
以後は「工化時報」の級友だよりに移管されました。昭和  
34年10月の工化時報第2号以後は、12月と昭和35  
年6月に例会をやっています。この間、役員は次のように  
改選されています。

会 長	竹内俊夫	トヨタ自動車販売(株)
常任幹事	石尾正道	東京通産局繊維化学課
	神山文男	神山設計測量事務所
	小菌雅司	みたまや金属(株)
	倉田 貢	倉田高級耐火物製造所
	高橋安雄	東京都世田谷区農業委員
会計幹事	松縄好平	ブリヂストンタイヤ東京工場
幹 事	石田公茂	タマポリ(株)管理部
	稲垣遼雄	安全油脂(株)
	笹岡禎人	斉藤工業(株)生産部
	名取 康	三共(株)購買部
	西岡正光	東亜化工(株)



西本久雄 東邦油脂(株)  
松岡忠太郎 (株)松岡商店  
松原敏夫 浪速工業(株)  
森本 久 東西写真工業(株)

二化会では「紳士録」を発行していますから御希望の向きがありましたら切手同封して戴ければ差上げます。

現在32名の方の氏名・生年月日・本籍・現住所・学歴・職歴・趣味・家族について記入されています。各回でこの程度詳しいものをつくられば「工化会名簿」も更に立派なものとなり有効に利用されるのではないでしょうか。

名 取 記

---

### 個人だより

---

日本鋳業K.K.日立鋳業所  
製錬部電錬課

米 田 虎 雄

(新制2部3回生)

「工化時報」の原稿の依頼を受けまして一寸おどろいた次第です。私は昔から筆不精で名が通っているのによりによつて何にか書いてくれとの申入れですから。その反面「工化時報」に私の書いたものを出してもらつて多くの同窓の皆さんに私の存在を知つていただくことは喜ばしいことであると思ひます。

私の勤務地は茨城県日立市で隣接して日立製作所があります。勤務は技術班で技術調査および品質管理を主としてやつております。当鋳業所は銅鋳、硫化鋳の採掘から電気銅、棹銅、電気金、電気銀、硫酸等の生産までやつています。上野から準急で2時間ですから見学御希望の方は是非おいで下さい。

学窓を出てから早くも満6年になります。現在は2人の男児の父として楽しく暮らしております。Quality Controlの方は仕事ですから何んとかやっていますがbirth controlの方はまずかつたようです。

私用で時々上京していますがクラスの人に会う機会がなかなかありません。在京のどなたかこれを読んで下さいましたらクラス会の幹事に連絡して開催の計画を立てて下さい。

地方に住みついてしまうと「お山の大将」気分でのんびりとすごしてしまいます。今后は「工化時報」をたのしみにして読んで知識の交流をはかり、工化会の隆盛に努力したいと望んでいます。

なお、当所に勤務している工化会員をつぎに記しておきます。

- 深民 満 (新制1部5回) 硫酸課勤務
- 臼井 徹郎 (短期2部4回) 硫酸課勤務
- 雁部 敬夫 (短期2部5回) 分析課勤務
- 田切 輝和 (短期2部8回) 選鉱課勤務

以 上

## カナリヤの四方山話

山形県村山市楯岡

大石 儀三郎 (高工2回)

一般の例ですが、とかくエンヂニア又は学者の集りであるからなにか軽いものをつと思ひ上のような題字を選んでみました。

先年小生は暫らく健康をそこねていましたので、健康のためにはと思ひたち“カナリヤ飼育”を始めてみました。全く道楽に類したことであるが、騒々しい浮世を離れて小島の世界



を友とするときは本当に楽しいものです。

一口にカナリヤといつても幾種類もあります。まず“ローラ”“オランダ”“赤カナリヤ”をはじめ“細カナリヤ”等のスタイルカナリヤ又“赤巻毛カナリヤ”等の観賞用カナリヤ、最近流行している“大型カナリヤ”（英国種でヨークシャヤ又はノーイツチ）があげられています。只今一般的で輸出の主体にともなっているのは“赤カナリヤ”です。その内“大型カナリヤ”と“赤巻毛カナリヤ”に流行が移りつつあります。唯今愛鳥家達は夢中になつて“赤大型カナリヤ”完成に努力しています。豪華な大型赤カナリヤが市場に出廻るのも間近いかと思われます。

カナリヤの巣引（雛をかえすこと）は三月頃より始め、七月頃三回の巣引を行います。一羽の雌から平均して十羽ぐらい巣引に成功すれば、まず上々の成績といえよう。確実に産卵した卵を酸化、育雛するには仲々の技術ものですが、赤カナリヤの場合はその上に増色飼料を与えたりして、満足する赤を作出するわけです。又それに鳴声を訓練して完全な成長鳥とするわけですが、色・姿・鳴声と三拍子そろつたカナリヤを作出するのはなかなかの苦勞といえます。しかしそこに又楽しみがあります。

これから日増しに暖かさを加えてきますが、三月の声を聞けば巣引の準備にかかります。春の陽差しに美しい鳴声を聞くときには1日の疲れも忘れてしまいます。私は年々6~70羽の赤カナリヤと大型カナリヤ少々を巣引しています。カナリヤファンに分譲したり、残つたものは輸出に出荷してアメリカ行きとなるわけです。輸出は主として雄鳥だけですから一般に雄鳥が値段が高いのですがその点鶏とは反対で「カナリヤの世界は人間の世界と同じだ、男がいばつていて一。」と或る中年婦人からいわれたこともあります。

暇があればカナリヤのいろいろの研究・経験を機関紙“飼い鳥と動物”などに寄稿して地方ばかりでなく全国的に鳥友と交通して楽しんでいますが、当地方にも割合カナリヤファンが多く、小生のところへ巣引の極意を訊ねにやってきます。又カナリヤファンが遊びにやってきたときは本職を忘れて語り合うので家人からはとんだ道楽に病み付きとなつてといわれる始末です。

校友各位如何ですか。お仕事のあい間に一つ飼つてみませんか。

## 技術士合格者

第一回（34年8月）、第二回（35年11月）の技術士試験に合格された卒業生をお知らせします。

### 第一回

氏名	卒業回期	部門	勤務先
加藤泰正	(専工4 学9)	化学	加藤技術士事務所
西岡正光	(学2)	"	東亜化工
佐藤芳雄	(学2)	"	日本オルガノ商会
名取康	(学2)	生産管理	三共株式会社

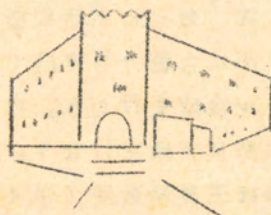
### 第二回

三宅信午	(専工1)	生産管理	東京大学高橋研究室
伊藤清和	( " 5)	"	日本大学工業経営学科
宮島明	( " 6)	"	二井蓄電池
安房信輝	(専工7 学10)	金属	金属研究所
光宮福松	(専工8 学11)	化学	日本大学工業化学科



清水泰広	(専工9)	織	維	山梨県繊維工業試験所
矢作宜男	(学3)	化	学	東京大学総合試験所
堀田留男	(学33)	織	維	東京都経済局
今政道忠	(学44)	化	学	汽車製造(株)
鹿野昌子治	(学5)	織	維	福絹工業(株)
松本健次	(学6)	"	"	東工大繊維化学
小野五城	(学7)	化	学	神戸電機
寺田松雄	(学8)	"	"	東京工業試験所
丹野 豁	(学10)	"	"	(株)鉄興社
多田久二郎	(新学2-2)	"	"	日本油脂
栗原正雄	(短1-3)	農	業	養命酒選造(株)

## — 母校だより —



### 学生研究会の紹介

現在工業化学科の学生がどんな研究会を作り研究を行っているか紹介してみたい。

現在は12の研究会があるがこれはほゞ研究室のある部門別に分けられていて学生自治会の助成金によって研究を行なっている。

#### (1) 化学工学研究会

昨年は輪読会と蒸留塔の組立て、流動層の運転を主体とし

て、工学祭の統一課題ではプラスチックの原料部門、製品部門を担当。

今年は工場見学を特に飲料、石油関係について行う。その他洋書の輪読及び演習を行う。

指導は小島和夫講師（学11）が当たっている。

#### (2) 高分子化学研究会

昨年は有機電子論を行ない、実験は接着剤・塗料・尿素ステロール樹脂、酢酸ビニールのパール重合などを行なった。

工学祭にはメラミン尿素の実験を行なって来た。

今年は昨年同様高分子の概念を理解するため輪読を行ない実験は休暇を利用して行う。又工場見学も再三行う。

指導は池村講師（学7）

#### (3) 食品化学研究会

昨年は含糖分析実験でアルコール分析、木材糖化及びアルコール合成を行なう。数度工場見学を行なった。今年度は夏期休暇に実験を行なう。

指導は玉置助教授（学4）

#### (4) 繊維素化学研究会

昨年から今年にかけてパルプ廃液中に含まれているリグニン有効利用について研究を行なう。又今年は木材から紙の製造までの実験を行なう。工場見学は日本紙業、十条製糸を昨年行き、今年は大昭和を初めいろいろくつもりでいる。

指導は工藤教授・宮森助手（学12）

#### (5) 燃料化学研究会

昨年は夏期休暇に石油関係の実験、蒸留塔の性能テストを



行なつた。

今年は毎週 1 回輪読やその他の文献調査を行ない、更に器械類の理論を行なう。又夏期休暇に石油、石炭の種々の実験を行なう。

指導は穴沢助教授（学 5）・植竹助手（新学 2-4）

#### (6) 有機合成化学研究会

有機電子論を高分子と合同で行なつたが未了のままになつた。夏休みに基礎操作と天然香料抽出及び D.H.A 合成を行なう。今年は工場見学を行い、夏期休暇には昨年同様な実験を行なう。

指導は板橋講師

#### (7) 金属化学研究会

工業用水、金層防触について行なつている。特に工業用水の問題は一昨年につづいて地盤沈下防止対策にともない用水の R.G.Y 式試験法による実験を東京都の依頼により行なつている。今年は昨年ひきつづいて都の河川井戸水の金層防触について研究していく。

指導者は山本教授・松島助手（新学 1-7）

#### (8) 電気化学研究会

昨年の夏期休暇にグラスTONの物理化学の論読会を行なつた。それと共に電池の製造、有機電解イオン交換膜に関することなどを行なつた。又昨年末には荒井講師による X 線分析の講演会を開催した。今年は輪読、工場見学を大に行ない、休暇に実験を集中的に行なう。

指導は岡教授・上野助手（新学 2-2）

(9) 無機化学研究会

生石灰の圧力消化、オートクレーブの連続操作について昨年は行なつてきた。今年は昨年にひきつづいての実験を行ない、輪読は珪酸塩関係について行なう。

指導は中原教授・永井教授・笠井助教助（学6）

荒井講師（学12）・宮川助手（学12）・青木助手  
（新1-5）

以上が工化科の学生の研究会であるが昨年まで研究会だった写真化学は同好会として発足、新らしく今年度から油脂化学研究会（指導松本教授（学1）・田村助手（新2-1））と放射線化学研究会（指導伊藤講師（学5））が発足している。全体的にみると各研究会とも実験は夏期休暇を利用して集中的に行ない、普段の日には輪読だとか文献調査を行なっている状態である。又工場見学は各研究会とも重視して行ない、夏期休暇には3年生による工場実習も相当数行なっている。



## 工 化 会 名 簿 訂 正

工化会会員名簿（職域別）の発行は、会員の方々に大変よろこばれ、今後の会員名簿編集に関する御希望、御注告を多く頂き、委員一同感謝しております。その後、勤務先、現住所などの変動のあつた方々や、卒業後消息不明となつていた方々より委員会宛に、続々連絡がまいつております。工化時報の紙面を借りまして、今まではまとめた訂正をのせました。お手もとの会員名簿を御訂正下さい。なお今後とも勤務先、現住所の変動および御友人の消息等御連絡下さるようお願いいたします。会員名簿は残部がまだ少くありますのでまだ入手していない会員の方々にも行き渡るよう御協力願います。

名簿編集委員 上野敦行

### 正 誤 表

頁	行	誤	正
1	9	文京区駒込動坂町10	港区飯倉片町6
2	16	埼玉県北足立郡樋川町樋川 1018	埼玉県北足立郡樋川町樋川 1018
3	20	新学2-4	専-4
	24	輸入薬品課	営業第二課、係長
		石崎2-50	石崎町2-50(44)6240
	32	新家工業	トル
		(68)2767	(611)2767
4	16	インターナショナル エンジニアズ	インターナショナル エンジニアズ
	17	野口孝一	野口孝一郎
5	22	(64)4171(内)536,537	(641)5181(内)666

頁	行	誤	正
6	22	世田谷区太子堂122	トル(住所不明)
	32	(44)9321	(341)0659
	30	新学2-3	新学2-6
9	7	(株)大野製革所	(名)大野製革所
	30	板橋区板橋町6-3244	大田区仲漕田2-20
12	10	(368)3568	(368)3563
13	7	埼玉県北足立郡草加町手代	埼玉県草加市手代245
		245	
15	2	港区二本榎西町2	新宿区白人町2-66
	6.7	(68)8915	(681)8195~7
	7	難波富雄	難波富夫
	8	減辺一郎	渡辺一郎
	26	盛岡工場	本社
	"	岩手県盛岡市平戸35	練馬区北大泉町522-49
		協和住宅	
16	30	北海道白糠町本通り	北海道白糠郡白糠町本通り
20	10	品川区大井出石町5008	大田区調布嶺町1-25
		大和荘	
21	24	69	(井原69)
22	19	大阪工場製品企画部	購買部第一課長
	26	所長	取締役
24	17	三和試薬(株)	三和純薬(株)
	28	伊藤達郎	伊藤達朗
17	24		福永一泰(京葉ガス)
25	15	ニツケル部	管理試験課
	16	ニツケル部	営業部部長
26	17	興津工場	本社
	"	千葉県興津町昭和火薬社宅内	杉並区阿佐ヶ谷
27	1	中央研究所	品川研究所
	3	柴田 実	柴田 実
29	2	(211)2571	(飯能)75



頁	行	誤	正
	21	大阪府吹田市山田字山田 下長野町	大阪府吹田市大字山田 下長野町
30	8	(84)0430 港区赤坂青山 南町5-79	トル
31	24		削除
	29		大阪市港区桂町2-3
34	11	東京工場資料部(96)511	P6414行にK.K.馬獅子 商会として
	22	堺工場	本社
35	23		P75より大和興業(KK) 電気部
37	1	第一物産(株)燃料部石油課 (27)0361	三井物産(株) (211)0311の12行と13 行の間に入れる。
	15		削除
	18	7339	7128~9
38	12		(301)4019
"	27	松求工場	松永工場
39	17	横浜市鶴見区潮田2-89	削除
40	4	帝国ニューヒューム鋼管	帝国ヒューム管
"		下保谷公団住宅100-4	下保谷公団住宅104
	27		ツサキ(3) 2202,3337
41	1		肥料技術室長
	2	硫安技術室	製造部
"		名古屋市南区柴田町1-5 清和寮内	名古屋市港区昭和町17-23
	8	港区芝三田台町1-3 (45)1082	削除
	10	清水2060	清水(2)6111~6118
14~15			東亜ペイント(株)大阪工場 青山豊専工-2 八尾市八尾中野

頁	行	誤	正
4	16	(68)9040	(0871)3351
42	20	複課長(84)4449	副課長(281)1121
	32	短1-2大田区南千住町305 東急 清和荘	新学1-4 品川区大井伊藤町5809
43	4		新学2-3 加える
	24	中原1034	(047)3141~5
46	4~5		東邦製鋼(株)東京営業所
	"		(561)1370 小林和夫学-3
	"		世田谷区烏山町117 加える
	6	大淀区長柄中通4-17	生野区巽大地町790
	25~26		綿貫助之新学1-6 大田区雪ヶ谷町82 (781)8493 加える
47	23	中野区上高田2-529 東洋 ファイバー寮	兵庫県伊丹市北村東洋ファイ バ(株) 伊丹工場社宅
48	4		墨田区横川橋5丁目橋小橋
	"		アパート3-24
	6	文京区大塚坂下町200	足立区興野町28 興野住宅
	12	(90)0555	C-313 (697)4160,4435
49	4		P18 2行 小西儀助商店 へ移す
	12	長崎県長崎市片瀬町2-47	削除
050	14~15		大宮工場 野村栄 学4 神奈川県横浜市
	20	新宿区市ヶ谷本村町5 加藤方	北区滝野川5-50
	20~21		二井蓄電器(株)大森工場
	"		(761)0333 宮島明 専工6
	"		品川区南品川6-1510
52	19~20		鈴木克己 新学1-7
	"		足立区千住東43日新化工内



頁	行	誤	正
	28	郡波	郡波
53	2~3		川上信雄 新学2-6
"	33		大島工場工務課
"	20	浦和	0881
"	"	桑村喜沢	桑網村喜沢92
"	32		(281)0211
"	33		横田耕三(学7)日東電気工業(株)品質管理課長
55	15		日本化学産業(株)14行の項へ
56	17	係長 川崎(3)4341	製造課長(441)3700
"	"	川崎工場	横浜工場として日本金属工業(株)の項19行にいれる
57	19	短2-5	新学2-8
	3		日立(2)111を加える
	8~9		日本光研工業(株)研究室
	"		山田 治 新学1-4
	"		板橋区志村中台町2487
	18	杉並区阿佐ヶ谷4-384	削除
	3.1	本輪西町399	知利別町99-3
		北星アパート1-16	
60	19~20		日本ソリヂェット(株) 川崎工場
			長縄賢 新学1-5
			中央区月島通8~2
61	1	横田耕三(学7)	トル
62	23	王子工場	川崎工場
	29	王子工場	川崎工場
63	21~22		野口製作所 鈴木茂平 新学2-6 岐阜県東松山市 大字松山
64	13~14		KK 馬獅子商会 木村喜一郎 新学1-4

頁	行	誤	正
65	21	浜田繊維工業原田工場	板橋区板橋 9-2318 浜野繊維工業(株)原町工場
	1		春元 鋳造 青野幸雄 新学 1-5
	19		一行削除
	22-23		KK 平沼精機(水戸) 4216 中島 徹 専工7
	22-23		三宅信午 専工1
66	29		住所削除
	31	第一作業所化工課	東京営業所化工課
	3		住所削除
	10		弗素係長
	18-19		KK プラスボンド本舗 取締役(731)2632 粟屋保高 3 大田区仲六郷1-22
67	19		一行削除
	3		窯業課長
	"	宮城県釜石市公園住宅 アパート	宮城県釜石市上中島アパート 8-18
	13		住所削除
	17		川崎工場
68	17-18		井出政一 新2-7
	10	藤産業(株)営業部	藤倉航装(株)営業部として 14~15行の間に入れる
	"		住所の項削除
	21		住所の項削除
	27	二井蓄電器(株)	二井蓄電器(株)大森工場 (761)0333
69	24		保土ヶ谷工場 ヨコハマ(44)6031~5内53
		(59)3376~7	
70	16	学 10	学 3
	18	墨田区緑町3-12同社内	江戸川区小岩町1~1194



頁	行	誤	正
	32		東工試内同社研究社 (371)5211内258 平間文雄 高工5 江東区南砂町4-4 4-4 都営6406 渡辺 登 新学1-5 東京都南多摩郡七生村 平山1444
71	19 22~24	山形県酒田市中町18	山形県酒田市中の口町18 増田工業KK 川野 憲 新学1-6 千葉県野田市上花輪1342
72	4	住所項Tel(38)1822	(361)1822
73	2	(27)0503	(561)4890~3
	"		文京区森川町76
	13	埼玉県北足立郡大和町 下新倉1580	葛飾区小菅町635
	19		一行削除
	"		三ノ輪ゴム工業(株)
	"		定方孝之 新学1-6
	"		荒川区南千住1-53
	"		(891)5621~2
75	24	(24)1023	(241)1026,6606
	29		(231)8581
	"	千葉県	東京都
76	11	明治生命 馬場先出張所	" 本石町出張所
	17	明治工業(株)	明昭工業(株)
77	9	杉並区天沼2-2468定金方	中野区江古田1-2239
	13	京都市小山元町34福井方	京都市小山元町34ヤクルト
	"	ヤクルト寮	正親寮
	20~21		八幡化学工業(株) 製造課長

頁	行	誤	正
	20-21		水田 彰 学-2
	"		戸畑市小沢見町小沢見社宅
	"		137号(8)-5855
	23		一行削除
	28	荒川区南千住5-117山陽社内	北区堀船町10
78	19		期別 新学1-8 短1-6
	29	(03)3338	(731)3338
	30-31		友和鑄造(株)
			原田武司 新学1-5
79	16	長野県木曾福島町(木曾福島)	長野県西筑摩郡木曾福島町
		57	57
	20		一行削除
80	1		"
	2		"
	10	須永 興	伊藤 興
		千葉県市川市真間下136	静岡県庵原郡袖師町嶺
		ライオン寮	1460
	26		住所別削除
81	21		会社電話番号及び住所別
	"		項削除
	22		役職主任
	29		会社名 ロールカミソリ製
			造(丸伸商工(株))
82			研究所
	11	(022)5161 内23	(022)(3)5161 内23
	13	(96)3255	(961)3255~8
83			学協会
	12		住所別項削除
	14		一行削除
85	8		防衛庁の項12~13
			行の間に入れる。



頁	行	誤	正
	11	(59)0311 内874	(428)5211
	12	(59)0311	"
86	13	通信学校	生徒教育隊
	"		役職、教官
	"		電話 ヨコスカ長井210 内40
	32	越中島駐屯部隊	調達実施本部
			技 官
			(408)5211 内2383、32
			行を85頁12~13行に入
			れる
89	3	新学 2-3	新学 1-3
91	20	専工-10	専工 1
	"	岩手県遠野市遠野町13	岩手県遠野市遠野町12-45
		地割95山口方	菊地スエ方
92			地方自治体
	6		旧性 平清水
93	11	安 邦	保 成
	"	都下八王子市中野町西1-3503	八王子市小門町35
96			準官公署
	1		一行削除
97	11		(ツダ沼)168
	12	冶金科	削除
	13	千葉市花神明町83	千葉市花園町63
	19		削除
	20		削除
98	3		住所項削除
	7		14~15行の間に入れる
	17		旧性 柯 賢恭
99	26	新宿区戸山町1 戸山ハイツ	新宿区戸山町1 戸山ハイツ
		2号地27号	2号地271号
100	14	板橋区富士見町24	練馬区北町3-1007
	17		勤務先 津田沼

頁	行	誤	正
	18		玉置 研
	19		(山本研) 日本防錆技術協会
	20		横手 研
	21		市川 研
	22		(小島研) 日本フェライト研
	29	Te l 郡山1110	削除
101	6		(701) 1176
	3~4		高等学校 岩手県高等学校教職員組合 会計部長 定通部長 (モリ岡) 8348 高橋信重 専一5 盛岡市上田下黒石野田地22
102	11	埼玉県川越市協田757	都下北多摩郡田無町ヒバリケ 丘47~205
104			中学校
	4	奈良富夫 様似町412	奈良富雄 様似町様似412
105	7	鳩ヶ谷町1737	鳩ヶ谷町737
	22~23		大田区大森第二中学校
	"		細川 隆 新2-8
	"		神奈川県川崎市二子765
106	8		削除
	20	平板508-1(平板) 130	輿板508-1(輿板) 130
108			学 園
	6	小宮理子 墨田区緑町4-30	古宮理子 三鷹市新川公団住宅 65-107
109	6~7		(呉服商) 伊藤隆雄 新学1-3 千代田区平沢町 1~2
	"		



頁	行	誤	正
109	6~7		(331)5058
	8~9		(呉服商)今泉清次 新学1-1
	"		北海道千歳郡恵庭
	9~10		(塗料商)岩下利正 新学1-6
	"		長野県南佐久間郡野深町原 419
110	8~9		(業種不明)国友義和 新学1-8
	"		足立区千住東町90 (88)3420
	15~16		纖維製品商
	"		坂下浅一郎 専工-11 新学1-2
	"		福井県鯖江市上深江町89 (鯖江市)
	"		468
111	31~32		電機器具販売 宗村行徳 新学1-3
	"		埼玉県川口市青木町3-365
112	3~4		(配線器具製作)山本武治新 新学1-4 目黒区中目黒 1445
	"		(齒料悪具商)横山正直学-9
	"		杉並区井荻2-10 (398)3418
	"		自営(業種不明者)
	8		削除
	14		"
	16		"
			"

頁	行	誤	正
114	9		削除
"	25		"
	<del>25</del> 26		松村俊作 新学 1-3
	"		大田区田園調布 1-26-8
	"		(721) 3988
	31		削除
115	2		"
118	"		海外居留者
	"		琉球大学農学部(講師)
119	"		職域不明者(氏名五十音順)
	17		削除
121	1		鶴飼研究事務所(34)5816
"	"		として6頁18行~19行の
"	"		間に一行入れる
"	18		削除
122	15		"
"	<del>21</del> 22		影山 勝 短 2-3
"	"		岡山県
123	9		削除
125	18		"
128	1		"
"	2		"
"	19		"
"	28	橋村恭雄	橋村泰雄
130	10	三田善明	三田善朗
131	22		削除
"	23		"
"	32		"
132	1		"
"	"		消息不明者(氏名五十音順)
"	7	青野幸雄 新学 1-5	削除
"	10	粟屋 保 高工-3	"



頁	行	誤	正
133	31	柯 賢恭	削 除
134	"	川上信雄	"
135	8~9		桜井英介 専工4
"	17	志田光之助 専工4	削 除
	19	篠沢 明 新学2-6	"
	24	芝宮正雄 学-8	" (死亡)
	29	鈴木茂平 新学2-6	"
	8	原田 武 新学1-5	"
	17	菱川土郎	"
	20	平清水正利 高工-1	"
138	15		"
	23		川崎製鉄千葉製鉄所
	"		千葉(2) 7111 内361
	"		巻口宏臣 専工
			12頁30~31行に入れる
139	5		KK志村化工ニツケル部
"	"		係長 山口 基 高工-3
"	"		北区中十条2-14として
"	"		P25の19~20行に入れる
140			18~19行に西村重雄
			専工-8を入れる
	14	福永一泰	削 除
143	3	(68)5609	(681)2509
	14	田中力一	田中功一
	18	中野周平	千野周平
146	11~12		加賀美秀吉
			練馬区豊王北1-4
	15	渋谷区代々木富ヶ谷1475	新宿区西落合3-930
	16		志方 方
	20	伊藤政幸	伊東政幸
147	1		茅ヶ崎市上十間坂下12028
	17		(717)198

頁	行	誤	正
	21	自黒区柿ノ木坂343	新宿区甲良町3伊藤方
	29		(411)0018
149	27	文京区森川町21	文京区森川町1
150	8	矢本溪郎	矢本環郎
	22		杉並区高円寺5の867
	"		吉岡方
	26		中野区昭和通り1の7佐藤方
	29		港区麻布北日ヶ窪町14
	"		日銀子弟寮(481)6534
	30	川崎市の坪464	川崎市市の坪464
	32	大田区雪ヶ谷4-6	大田区雪ヶ谷町406
151	1	宇賀治正名	
	17		市川市真間町2の804
			平塚方
	24	*庄司	*をとる。
152	14	沼沢士郎	池沢七郎
153	17	小林昭昭	小林昭朗
	19	横浜市鶴見区向井3-184	横浜市鶴見区向井町3-184
154	1		横浜(5)6990
	15	世田ヶ谷区大蔵町 251-4和田方	杉並区井荻1-41古川方
			(391)1569
		栃木県	茨城県
	22-23		宮浦 勇
156	8	横浜市保土ヶ谷町24	横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町
	9		24
157	19	東京都調布市上石原町 475	舞鶴市字松陰131
	"	(27)7002~6	日之出化学松陰寮 削 除 (勤務先)日之出化学工業 (株)舞鶴工場



頁	行	誤	正
159	8	鶴見製作所 (311) 1675	内藤電誠工業 (株) 中原3907
161	27		中央区日本橋堀留町1-8
	"		藤井商店内
162	24	板橋区立第三小学校	板橋区志村第三小学校
164	12	中野区本町通2-28 森山荘内	中野区小淀町12 河野方
		昭和化工機 (株)	昭和化工 (株)
179	5	Te l (971) 0337	(771) 0337
189			大学院
	5	杉並区高円寺4-588 小松方	八幡市高見町6-700 八幡製鉄 高見寮

## 編集後記

学部3年 遊佐義郎

やつと第3号発行までこぎつけた。まさにやつとという感じがするのはお読みになればよくおわかりになると思う。今号は、親睦的な内容のものという企画のもとに着手したわけだが、とにかく原稿が集まらないと発行はできない。原稿依頼状を出したのが昨年の暮れだった。およそ50通だしたのに、かえってきたのは3通というありさまであった。編集委員もこれでは手も足も出ない。

3月に出す予定だったのに、おくれにおくれて7月になってしまつて、御寄稿くださった方には誠に申し訳なかつたが、上記の状態なので御了承下さい。

会員諸兄の手によつて先輩、後輩のつながり、友人同志の関係をこの時報を通して行なえるように育て、いつていたゞきたい。

また、編集員の未熟さでいたらぬ点が多々あると思いますので、どしどし御不満や御希望を寄せてくださるようお願い致します。

## 原稿募集

工化時報第4号を11月に発行する予定でありますので、親睦的な内容、消息、級会、個人だより、あるいは御自分のやつておられる専門的な研究その他なんでも結構ですから御寄稿ください。締切は9月30日です。

御寄稿先は 千代田区神田駿河台1-5

日本大学理工学部工業化学科

工化会時報編集委員会

編集発行人 工化会雑誌編集委員会

責任者 穴沢一郎

印刷所 田中謄写堂 TEL (561) 2257  
(561) 5562

住所 東京都中央区宝町3の3

日本大学工業化学科工化会

発行所 千代田区神田駿河台1丁目 理工学部2号館内

電話(291) 0611~0613





